

2024/03/31

説教題：復活 - 罪の赦しの確認

お早うございます、OIC の皆さん

イースター（復活祭）の今日、私はイースターの本当の意味とその影響、すなわちイエスの復活を祝う日、罪の赦しが確認された日を明らかにしようと思います。キリストにある兄弟姉妹に、私たちの人生に生きておられる救い主がおられることを励ましたいと思います。

イエスの十字架上の死、すなわち十字架刑は、私たちの永遠の赦しを買うために行われたものであり、新約聖書の 4 人の福音書記者、すなわちマタイ、マルコ、ルカ、そしてヨハネによって詳述されている。イースターは、ユダヤ教の祭日である過越の祭りの犠牲の子羊の犠牲なしには何の意味もありません。過越の祭りは、神がユダヤ民族に命じたもので、彼らが子羊を生け贄として捧げ、その血をかもいと 2 本の門柱に塗ったので、滅ぼす御使いがエジプトにいた彼らの上を通り過ぎたことを思い出すためです。滅ぼす御使いは、かもいと 2 本の門柱に子羊の血が塗られた家にいる者を除き、エジプトに生まれたすべての初子を殺しました。これは、ファラオの奴隷状態からユダヤ人を解放させるために神がエジプトに送られた災いの最後のものでした。イエスはこの最初の過越の祭りからのメッセージを成就されました。バプテスマのヨハネは、イエスが水のバプテスマを受けるためにヨハネのもとに来たとき、このことを預言しました（ヨハネ 1 章 29 節）：
「その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」

イエスの磔刑の日は、キリスト教社会では聖金曜日として認識されてきました。これは不思議な事実です。日本と中国の政府の日付とユダヤ教の宗教的な日付を除けば、世界の日付のほとんどは紀元前と紀元後で年を数えています。BC は "Before Christ" (キリスト以前)、AD は Anno Domini (主年) である。しかし、これらの社会は一般的に、イエスが "神の子" であることではなく、有名な "人" であることを表しています。

使徒ヨハネは、イエスの犠牲を次のように記録しています。（ヨハネ 19 章 17-18 節）：

「¹⁷ 彼らはイエスを受け取った。そして、イエスはご自分で十字架を負って、「どくろの地」という場所（ヘブル語でゴルゴタと言われる）に出て行かれた。¹⁸ 彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真中にしてであった。」 聖書は、イエスが本当に死んでいたことを明らかにしています。イエスの十字架刑の目撃者であるヨハネは、（ヨハネ 19 章 33-35 節）で次のように述べています。：「³³ しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかつた。³⁴ しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかつた。³⁵ それを目撃した者

があかしをしているのである。そのあかしは真実である。その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということをよく知っているのである。」（ヨハネによる福音書）20章を読むとわかるように、ヨハネがこの福音書を書いたときの大胆な証言は、彼が他の使徒たちよりも信じるのが早かったことを物語っています。

（ヨハネ 20章 1-2節）：「¹さて、週の初めの日に、マグダラのマリヤは、朝早くまだ暗いうちに墓に来た。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。²それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛された、もうひとりの弟子とのところに来て、言った。「だれかが墓から主を取って行きました。主をどこに置いたのか、私たちにはわかりません。」

後に日曜日と呼ばれるようになった週の初日は、ユダヤ教の週の初めである、後に日曜日と呼ばれる日は、安息日である土曜日の翌日です。イエスが十字架につけられてから3日目でした。当時のユダヤ文化では、どのような出来事も一日ごとに丸一日と数えられていました。イエスは三日目によみえると約束されていました。（マタイ 16章 21節）：「その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。」

マグダラのマリアの第一印象は、人々がイエスの遺体を盗んだというものだった。論理的に考えて、パニック状態に陥っていた彼女は、イエスに最も近い二人の弟子、漁師として明らかなリーダーであったペテロとイエスが逮捕された木曜日の晩、最後の晩餐でイエスの胸にもたれていたヨハネに走って行きました。

（ヨハネ 20章 3-7節）を読むと：「³そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓のほうへ行った。⁴ふたりはいっしょに走ったが、もうひとりの弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。⁵そして、からだをかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中にはいなかった。⁶シモン・ペテロも彼に続いて来て、墓には入り、亜麻布が置いてあって、⁷イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。」

もちろん、ペテロとヨハネも、自分たちが礼拝していた主がいなくなったことにパニックを感じていました。ヨハネは墓までの徒歩競争に勝ちましたが、ペテロはいつも大胆で、緊急事態にも躊躇しなかったので、墓に入り、確認しました。聖書は、この二人の使徒がどのように異なった反応を示したかを記録しています。

若い頃にヘブライの学校に通ったユダヤ人クリスチャンなら、イエスの遺体の上に置かれたきちんと畳まれた顔布やナプキンが、それだけで物語を物語っていることに気づくでしょう。イエスの遺体を盗む強盗が、わざわざ顔布をたたむようなことをするはずがないからです。

さらに、（ヨハネ 20章 8-10節）を読みましょう。：「⁸そのとき、先に墓についたもうひとりの弟子もはいつて来た。そして、見て、信じた。⁹彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。¹⁰それで、弟子たちはまた自分のところに帰って行った。」

さて、ヨハネもは墓に入り、見て、信じました。何を信じたのでしょうか？そしてなぜでしょうか？ここ OIC のユダヤ人クリスチャンの一人が、こんな説明をしてくれました。

「主人の食事が終わるまで、使用人はあえてテーブルに触れなかった。主人が食事を終わると、テーブルから立ち上がり、指と口を拭き、ひげをきれいにし、ナプキンを束ねてテーブルの上に放り投げた。当時は、ナプキンを丸めることは、「もう食べ終わった」ということを意味していたのだ。」

しかし、もし主人がテーブルから立ち上がり、ナプキンをたたんで皿の横に置いたとしたら、使用人はテーブルに触れる勇気がなかったでしょう。

また、“Jews For Jesus”のクリスチャン伝道者から、ヘブライ学校で教えられるユニークな折り方があると聞き、それを見せてもらったが、申し訳ないが忘れてしまいました。使徒ヨハネは、“死んだはずの”イエスから次のようなメッセージを受け取ろうと敏感になっていました：私は、死から戻ってきている！従って、ヨハネは見て信じたました。

ブルース牧師、なぜペテロは「見ても信じなかった」のですか？ヨハネはもっと注意深い人だったかもしれません。しかし、ペテロはわずか4日前に主を3度も否定したことで、まだ落ち込んでいたのだと思います。人は落ち込んでいる時、物事に鋭く気づくことができません。（マタイ 26章 73-75節）を思い出します。：「⁷³しばらくすると、そのあたりに立っている人々がペテロに近寄って来て、「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではっきりわかる。」と言った。⁷⁴すると彼は、「そんな人は知らない。」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。⁷⁵そこでペテロは、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います。」とイエスの言われたあのことばを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。」

おそらくペテロはイエスの死に責任を感じていたのでしょう。いいえ、彼はそうではなかったのですが、うつ病がそうさせるのです。多くのメッセージの冒頭で述べたように義認とは、イエスの十字架上の死に基づいて、永遠の赦しを買うために、私たちはもはや罪がなく、義とされるという神の宣言です。

教訓 その1

罪を犯したすべての人、つまり人類すべては、イエスの犠牲に責任があります。だからこそ、イエスは私たちの赦しを支払うために地上に来られたのです。ペテロは復活した主を見たとき、どんなに安堵したこと。ヨハネのように、あなたの罪のために死んでくださったイエスが死者の中からよみがえられたことを信じるなら、あなたの罪も赦されるのです。

その最初のイースターの日の詳細は、マタイによる福音書に詳しい。マグダラのマリアは、夜が明ける頃、イエスの墓をさらに調らべるために再び戻ってきました。

（マタイ 28章 1-10節）：「¹さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方、マグダ

ラのマリヤと、ほかのマリヤが墓を見に来た。²すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからである。³その顔は、いなずまのように輝き、その衣は雪のように白かった⁴番兵たちは、御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。⁵すると、御使いは女たちに言った。「恐れてはいけません。あなたがたが十字架につけられたイエスを捜しているのを、私は知っています。⁶ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらんください。⁷ですから急いで行って、お弟子たちにこのことを知らせなさい。イエスが死人の中からよみがえられたこと、そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれ、あなたがたは、そこで、お会いできるということです。では、これだけはお伝えしました。」

彼らは、今度は御使いに出会います。この神からの使いは、イエスの11使徒がガリラヤに行くように指示を与えます。その後、彼らはイエスご自身に出会います。(マタイ 28章 8-10節)：「⁸そこで、彼女たちは、恐ろしくはあったが大喜びで、急いで墓を離れ、弟子たちに知らせに走って行った。⁹すると、イエスが彼女たちに出会って、「おはよう。」と言われた。彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拝んだ。¹⁰すると、イエスは言われた。「恐れてはいけません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えるのです。」」

私たちは、御使いの指示だけで十分だと思いかもしれませんが、イエスは復活したことを彼らに安心させたいという憐れみから、彼らの前に姿を現されました。

教訓 その2

イエスを信じる人々に対するイエスの憐れみは、イエスを信じる人々のために命を捧げるだけでなく、イエスを信じる人々にご自分を現す方法を見いださせます。クリスチャンよ、あなたの人生にイエスが個人的に触れてくださることを期待しましょう。イエスは、ご自分を探し求める初期の信者たちに対してそうであったように、あなたに対しても感じておられます。もし私たちが主を求め続けるなら、主は私たちの心の願いを無視されることはなく、“喜びなさい!”という主の愛に満ちた教えを聞くことができるでしょう。

イエスはもちろん約束どおり、ガリラヤで使徒たちに会いました。イエスは以前の大漁と言う奇跡を、繰り返し行われました。

(ヨハネ 21章 1-3節)で読むことができます。：「¹この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現わされた。その現わされた次第はこうであった。²シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼベダイの子たち、ほかにふたりの弟子がいっしょにいた。³シモン・ペテロが彼らに言った。「私は漁に行く。」彼らは言った。「私たちもいっしょに行きましょう。」彼らは出かけて、小舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。」

使徒たちはミニストリーから離れたかったのかもしれません。もしかしたら彼らは、イエスが毎日目に見える形で彼らとともにおられない今、以前の生活に戻ろうとしていたの

かもしれません。しかし、彼らの心がどこにあったとしても、イエスは彼らの心をリフレッシュさせる方法を知っておられました。彼らが大漁を収めて彼の後を追い始めたことを通して。

(ヨハネ 21 章 4-8 節)：「⁴夜が明けそめたとき、イエスは岸べに立たれた。けれども弟子たちには、それがイエスであることがわからなかった。⁵イエスは彼らに言われた。

「子どもたちよ。食べる物がありませんね。」彼らは答えた。「はい。ありません。」⁶イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」そこで、彼らは網をおろした。すると、おびただしい魚のために、網を引き上げることができなかつた。⁷そこで、イエスの愛されたあの弟子がペテロに言った。「主です。」すると、シモン・ペテロは、主であると聞いて、裸だったので、上着をまとって、湖に飛び込んだ。⁸しかし、ほかの弟子たちは、魚の満ちたその網を引いて、小舟でやって来た。陸地から遠くなく、百メートル足らずの距離だったからである。」

イエスがペテロを呼ばれたときと同じように、奇跡的な魚の捕獲を繰り返されたとき、ペテロの憂鬱な気持ちは溶けてしまいました。

ルカの中にある数年前のこと(ルカ 5 章 4-6 節)：「⁴話が終わると、シモンに、「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。」と言われた。⁵するとシモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましよう。」⁶そして、そのとおりにすると、たくさんの魚がはいり、網は破れそうになった。」

さて、復活した主を見て、ペテロはペテロとして、他の弟子たちが岸に漕ぎ着ける中、ただ海に飛び込むしかありませんでした。彼は生まれながらのリーダーであり、その行動には感情が深く関わっていました。イエスがガリラヤに現れたのは、その傷ついた戦士ペテロに焦点を当て、人間でありながら、イエスからの特別な権威を持つリーダーとして、イエスに取って代わるよう呼びかけるためでした。美味しい魚のフライの朝食の後、イエスは再びペテロを呼ばれます。今度はただイエスに従うだけでなく、イエスの羊を導き、養うために。イエスとペテロの「私を愛してください」という会話をするためでした。何が本当に起こっていたのかを明らかにするために、私は新約聖書の原語であるギリシャ語の「愛」を使わなければなりません。

(ヨハネ 21 章 15-17 節&マウンス・ギリシャ語 NT)で使われている agapeo は心の深いところにある愛、価値、尊敬です。phileo は顕在的な親切、愛情、誰かを好きになることです：「¹⁵彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか{agapeo}。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなただを愛すること{phileo}は、あなたのご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」¹⁶イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか{agapeo}。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなただを愛する{phileo}ことは、あなたのご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい」¹⁷イエスは三度ペテロに言われた。

「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか{phileo}。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか。{phileo}」と言われたので、心を痛めてイエスに言っ

た。「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなただを愛すること {phileo} を知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

(使徒言行録 2 章 14 節) のペテロの説教にあるように、ペテロはこの指導者としての召しを受け入れました。：「そこで、ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々にはっきりとこう言った。「ユダヤの人々、ならびにエルサレムに住むすべての人々。あなたがたに知っていただきたいことがあります。どうか、私のことばに耳を貸してください。」

イエスのペテロに対する最初の質問は、あなたはわたしをアガペオの愛で愛しているかということだけでなく、他の弟子たちよりもわたしをアガペオの愛で愛しているかということでした。この難しい質問は、ペテロが傲慢になるためではなく、イエスのリーダーシップへの召命が、人間として可能な限り最大の献身をもってイエスに従うことを意味していることを悟るためでした。さて、ブルース牧師、ペテロがイエスに「私はあなたをアガペオで愛しています」と言い返すまでに、なぜ 3 回もかかったのでしょうか？と質問するかもしれません。というのも、ペテロは前回、主イエスのためにすべてを捧げようと自分の心に自信を持ちすぎた結果、災難に見舞われたことを思い出したからです。

このことが、(マタイ 26 章 33-35 節) に記録されています：「³³すると、ペテロがイエスに答えて言った。「たとい全部の者があなたのゆえにつまずいても、私は決してつまずきません。」³⁴イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」³⁵ペテロは言った。「たとい、ごいっしょに死ななければならないとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみなそう言った。」

ペテロは落ち込んでいた状態を乗り越えつつあったが、自分の罪深い心を忘れてはいませんでした！彼はイエスに“私はあなたを agapeo の愛しています”と言うのを恐れていただけです。

親愛なる OIC のクリスチャンの皆さん、もしあなたが私たちのイエスを裏切ってしまったなら、ペテロの失敗と彼を守ろうとしたイエスの素晴らしい愛を思い出してください。御使いが「主はよみがえられた」と言って以来、私たちには生きておられる救い主がおられます。

愛とは、私たちが感じる以上に、私たちが行うものであることを忘れてはならない時があります。ペテロがついに、その心が本当に主を再び否定することはないだろうと機会をつかんだ後、イエスはペテロに、ペテロの誠実な心を見ておられることを示されました。ペテロは、「父の約束」である聖霊を受けた後、世界をひっくり返す小さなグループのリーダーとなります。イエスはまた、終末まで忠実であろうとするペテロの決意を信頼されました。

(ヨハネ 21 章 18-19 節) で見ま

す。：「¹⁸まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」¹⁹

これは、ペテロがどのような死に方をして、神の栄光を現わすかを示して、言われたことであつた。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」真実であるイエスが「本当に、本当に」と言うとき、その聖なる完璧な口からは、驚くべき真実が語られます。：18節「イエスはペテロに、いつか十字架につけられると言われた。”あなたは手を伸ばし、誰かがあなたの帯を締めて、あなたが行きたくないところに連れて行く。」

よみがえった救い主の栄光は、救い主が死からよみがえられたのと同じように、私たちもよみがえるのだということを私たちに気づかせてくれます。ペテロは、この栄光の復活した救い主に忠実な生き方ができることを50年後に使徒パウロが書いています。

(1 コリント 15 章 54-56 節)：「⁵⁴しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」とするされている、みことばが実現します。⁵⁵「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか⁵⁶死のとげは罪であり、罪の力は律法です。」

復活祭は、私たちの罪が赦されたことを確認する日です。イエスは、死を私たちの主とした律法の力を終わらせました。そう、主は墓を二つに割られたのです。死はクリスチャンを支配する力はありません。もし私たちが生においてイエスに従うなら、私たちは死を通してイエスに従い、神の子として約束された栄光を得るのです。

ペテロが残酷なローマ兵を前にして感じたように、死の恐怖が悪癖のようにあなたの心を捉えたとき、あなたは主を否定したことがありますか？自分を責めないでください。イエスはペテロを赦されました。イエスはあなたを赦してくださる。この最も輝かしい日の喜びが、神の天使から話を聞いた後にイエスが弟子たちに現れた時のように、イエスに従うようにあなたの心を変えましょう。イエスはあなたに、ガリラヤに行け、あるいは他のどこにでも行けと、イエスの兵士として行軍命令を下すのではなく、あなたに愛を示したいのです。イエスはあなたのために復活されたという確証なしに、あなたに行動をとることは命じられません。主は、この天を上り下りしながら、自責の念に駆られた心を新たにするために手を差し伸べておられるのです。あの弟子たちと同じように、あなた自身のために喜びの言葉を受け入れてください。喜びなさい！主はよみがえられました。

今日、あなたがOICに来たのは、キリスト教とイースターのお祝いへの好奇心からですか？そうではなく、神があなたをここに連れてこられたのです！主イエスを信じ、その犠牲を受け入れ、主が復活されたことを信じてください。そうする時、あなたも主イエスの「喜べ」という声を聞くでしょう。

老いも若きも、イエスの羊であるクリスチャンに対するイエスの愛と配慮を喜び、聖餐式に与りましょう。これは、聖金曜日の前の悪名高い木曜日の夕方、イエスがこの世で最後の晩餐をされたことを思い起こすことなのです。

参考文献

MOUNCE NT – The Mounce Reverse Interlinear™ New Testament (MOUNCE) Copyright © 2011 by William D. Mounce. Used by permission. All rights reserved worldwide.

“Reverse Interlinear” is a trademark of William D. Mounce.

NASB – New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995, 2020 by The Lockman Foundation. All rights reserved.